

# 令和3年度 井手川内保育園 自己評価

◎：よくできている、○：できている、△：普通、×：改善が必要 として回答を集計した

項目	内容	◎	○	△	×
子どもの 人権の尊重	すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している	11%	47%	42%	0%
	あなたの保育が、子どもの将来の基礎を培う、極めて大切な役割を担っていると認識し、そのために自身の人間性と専門性の向上に努めている	11%	16%	74%	0%
守秘義務	個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく、漏らすことがないようにしている	41%	50%	9%	0%
勤務態度	周囲の人への言葉遣いに気をつけ、笑顔を心がけ、きちんとした対応を常に心がけて行動している併せて、仕事に適した身だしなみを実践している	9%	55%	36%	0%
	ゆとりをもって出勤し、勤務に支障をきたさないよう、規則正しい生活を送っている	23%	50%	18%	9%
	私語を慎み、仕事に取り組んでいる	9%	23%	64%	5%
連携・共有	伝達の順番や方法を意識して行動しているまた、頼まれごとや約束をもれなく果たすことができている	9%	45%	45%	0%
	業務遂行にあたって、正確・迅速かつ、こまめに上司に報告・連絡・相談をしている	9%	41%	50%	0%
	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり、意見を言ったりできている	5%	26%	68%	0%
保育計画	指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を読み、参考にしている	0%	14%	64%	21%
	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味、関心に合っていたかという視点から、自分の保育を評価・反省している	7%	33%	53%	7%
幼児	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を把握し、受け止めて、安心して甘えられるように、寄り添い支えている	0%	22%	78%	0%
	日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めている	11%	44%	33%	11%
	一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができている	11%	11%	78%	0%
乳児	一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、成育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景を理解している	0%	20%	70%	10%
	子どもの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受けとめ、微笑み、要求に応じる言葉を優しく返している	10%	40%	50%	0%
	あなたがどんな状況にあるときにでも、子供の笑顔やしぐさをかわいいと感じることができている	10%	60%	30%	0%

項目	内容	◎	○	△	×
共生・共育	保育園では、障がいを持つ子どもでもない子ども「共生」 「共育」の視点から、当たり前のこととして保育するという 考え方に共感している	16%	58%	26%	0%
行事	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やか な育ちにつながる意味を持つことを理解している	6%	39%	56%	0%
	「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、 日常の保育の積み重ねの結果となるよう心掛けている	6%	39%	56%	0%
	子どもも保護者も期待感を持つ「行事」にはあなた自身も喜 んで、余裕をもって参加できている	5%	58%	37%	0%
保護者との 関わり	園での様子を伝え、家庭の様子を聞く中で、子どもの育ちを 保護者とともに考え、喜びあうことができている	20%	47%	33%	0%
	連絡帳を書くときに、保護者がある内容をよく理解でき、楽 しみにするような書き方を心掛けている	13%	27%	47%	13%
安全管理	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、 非常災害時にあなたが何をしなければならないかを理解して いる	11%	37%	37%	16%
発達援助 (幼児)	子どもが配膳の手伝いなど、食事に興味を持てるような機会 を作るようにしている	13%	0%	88%	0%
	天気の具合や活動内容に応じて、衣服の着脱・調節を子ども 自らが考えられるように言葉をかけている	11%	33%	56%	0%
	子どもが嬉しとき悲しいとき、また困ったり戸惑ったりして いるときに、それを伝えたい存在となれるよう意識している	0%	56%	44%	0%
	遊びの中で、子ども自らが試行錯誤して作っていくルール を、大切に見守ることができている	0%	89%	11%	0%
発達援助 (乳児)	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食 べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですること を第一に考えている	10%	40%	50%	0%
	おむつ交換は「気持ちいいね」などと声をかけたり、着替え の時などには、そこに応じた手助けや言葉がけをしたりしな がら行っている	20%	40%	40%	0%
	子どもが安定した気持ちで、好きな遊びや興味のあるものを 見つけて、じっくり楽しめるよう配慮している	10%	50%	40%	0%
環境 (幼児)	一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもた ちと一緒に関わりあう喜びを味わう場や機会を用意できている	13%	13%	75%	0%
	今日咲いた花、飛んできた鳥や虫など、それぞれの季節なら ではの子ども感動が、あなた自身のものとして受け止めら れている	11%	33%	56%	0%
	子どもが自由に取り出して遊べるよう、遊具や用具(クレヨ ン・粘土・紙・絵の具)などの構成を整え、用意するなど工 夫して保育をしている	0%	13%	75%	13%
	絵などの作品に、その子の喜びや悲しみ驚きなどの感動を読 み取ろうとしている	0%	33%	56%	11%

項目	内容	◎	○	△	×
環境 (乳児)	一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもたちが一緒に関わりあう喜びを味わう場や機会を用意できている	0%	30%	70%	0%
	散歩のとき、一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけるなどして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしている	30%	50%	10%	10%
	子どもの「これなーに？」「どうして？」などの繰り返しの質問に、忙しいときでもできるだけその都度答えようとしている	10%	30%	60%	0%
	絵などの作品に、その子の喜びや悲しみ驚きなどの感動を読み取ろうとしている	0%	20%	70%	10%
言葉	日頃から声の大きさに気をつけ、分かりやすい、子どもへの心を込めた温かな言葉遣いでゆっくり話すようにしている	5%	21%	58%	16%
	「早くしなさい」「だめ」「いけません」などの指示、命令する言葉や禁止語をできるだけ使わないようにしている	0%	5%	68%	26%
	子どもが話しかけてきたときに、その内容や結論が分かっても、ゆっくり聞いて会話したい気持ちを満たし、言葉で伝えあう場を大切にしている	5%	53%	42%	0%
地域との 関わり	散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会を持つようにするとともに、気持ちよく挨拶を交わしている	32%	53%	16%	0%
	公園などの公共の場を使用した後は、子どもたちと一緒に清掃するなど気を配っている	11%	11%	58%	21%
	保育園には、子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	11%	21%	63%	5%
給食	給食は、原材料(洗浄を行う前)及び調理済み食品を、食品ごとに50gずつ容器に入れて密封し、-20℃以下で2週間以上保存することを把握し実行している	67%	33%	0%	0%
	加熱調理の際、中心温度は85℃以上1分以上の過熱が必要であることを把握し、きちんと実行している	67%	33%	0%	0%
	調理後、ただちに提供される食品以外は、菌の増殖を抑制するため、10℃以下または65℃以上の管理が必要であることを把握しきちんと実行している	67%	33%	0%	0%
	調理終了後から喫食までの時間は、2時間以内とされているが、把握している	67%	33%	0%	0%
	こまめな手洗いや爪の長さ、体調管理等、衛生的に仕事ができるように心がけている	67%	33%	0%	0%

# 評価点と課題点、来年度に向けての取り組み

## 以上児クラス

### ○評価点

- ・援助が必要な子や、気になる子に保育者がついており、何でも一人でできる子に寄り添ってあげる時間が少なかったが、午睡時や一对一の時間には、その子の甘えを受け止めることができた。
- ・室内あそびでは、数種類の玩具を用意して、コーナー遊びのように工夫をした。また、毎回玩具を片付けることで、活動と遊びの切り替えができるようにした。
- ・活動前の計画、事前の子どもたちへの説明を習慣化し、怪我・事故等の防止に努めている。
- ・運動会や生活発表会の二部制など、イレギュラーな面もあったが、形を考えながら無事開催でき、本当に良かった。今後も、柔軟な取り組みを考えていきたい。
- ・子どもたちの体調や機嫌など、クラス保育者が情報交換できていた。
- ・園と家庭での子どもの姿の情報交換をこまめに行うことができ、保護者の方からも家庭での出来事をよく話してもらった。
- ・コロナ禍で行事が中止になっていくのは残念だが、感染予防対策としては、今の園の取り組みを徹底し、家庭とも連携しながらこの状況を乗り越えていきたい。

### ○課題点・改善点

- ・子どもたちが楽しく遊べるよう、子どもの主体性を生かしていったが、うまくかみ合わず、トラブルにつながることもあった。
- ・すべり台を反対側から登って怪我をしてしまった子がいた。遊具の使い方について、子ども達と再確認し、怪我なく楽しく遊べるようにしていきたい。
- ・給食時の対応について、黙食がどうしても難しく、人の皿を触ったりする子もいた。
- ・週案での情報、意見交換を図っているが、十分ではない場面もあり、園内でさらに連携したい。
- ・健康チェック表での排便や検温チェックなど、子どもの体調面の把握に努めているが、子どもからの伝言で前日の症状を知らされる場面もあり、保護者との情報共有が不十分なところがあった。

### ○来年度へ向けて

- ・子どもたち、一人ひとりと関わる時間もしっかりとって、甘えを受け止めて、安心できる場所や存在であるように対応していきたい。
- ・来年度に向けて、年間の園の流れや園児一人ひとりの保育について、さらに保育士間で共有していきたい。
- ・できるだけ毎日の園での様子、活動内容を記入してお知らせするなどして、チェック表を活用しながら、保護者との情報共有を図っていく。

## 未満児クラス

### ○評価点

- ・衣服の着脱やトイレトレーニングなど、子ども一人ひとりの発達段階に合わせた援助を行い、自分でやろうとする意欲を引き出すよう心掛けた。
- ・登園時の受け入れから子どもたちの様子を観察し、保育者間で共通理解をしながら保育を行っている。
- ・子どもたちの要求にできる範囲でできる限り応えるようにし、心地よい空間、遊びの環境づくりに努めた。一人ひとりに応じて、気分転換を図る活動を行っている。また、戸外での活動も十分に行うことができて良かった。
- ・安全面に気をつけて保育を行うよう心がけた。大きな怪我もなく良かった。
- ・クラス前の廊下や、保育室、エアコン、手洗い場、加湿器など、こまめに掃除をして清潔を保っている。
- ・週末には、子ども達の様子を振り返りながら話し合いができ、次週への活動に活かせた。

### ○課題点・改善点

- ・個々に応じて十分関わるようにしているが、怪我、噛みつき、ひっかきが見られた。保育者自身がゆとりを持つようにしたい。
- ・家庭との関わりについては、保育者一人の対応ではなく、クラス全体で保護者支援に取り組んでいきたい。
- ・コロナ禍での行事計画については、保護者の意見や要望と、園としての感染対策とのバランスの難しさを感じた。
- ・体調がすぐれなかったり、コロナ禍もあって、なかなか外や他クラス等に遊びに行けなかったりして、部屋での活動が多くなった。保育士に甘えることも多くなり、子ども達もストレスが溜まっていたように思う。

### ○来年度へ向けて

- ・コロナ禍の中、保育者が健康管理に努め、子ども達が楽しく、また、保育者が楽しい保育を目指していきたい。
- ・玩具を常に出して置けるようなスペース作りや、月齢に応じた玩具を揃えていくなど、引き続き部屋の環境整備を考え、進めていきたい。
- ・子どもたちはマスクをすることが難しいため、換気や温度・湿度の管理を引き続きしっかりと行っていく。

## 給食

### ○評価点と課題点

- ・給食の温度や配食時間については、熱すぎるとヤケドの原因となり、冬は冷めすぎるとおいしくなくなるので、その点に気を付けながら配食を行った。
- ・箸を上手に使えるように、骨付きのサンマを提供したり(以上児)、「食」に関する絵本をクラスで給食やおやつの前に読んだりするなど、子ども達の「食」への関心を育む活動を行っている。
- ・アレルギー児への個別対応は出来ている。保護者へ除去表を返して、担任・主任・園長まで確認してもらっている。アレルギー除去の園児が、どこまで食べられるようになったのかをしっかりと把握し、担任とも情報共有を行った。
- ・喉に詰まりやすい食材についてお便りでお知らせする、0歳児には使用しない食材があるなど、食事の提供やその方法について配慮している。食材の味付け・色合い等についても、調理員でアイデアを出し合いながら、献立の工夫に取り組んでいる。
- ・子ども達の苦手なものも少しは口に入れるように促してもらい、食べることができていた。咀嚼の仕方等、子ども達の喫食状況を見ながら声掛けをしてもらった。
- ・園児や保護者から給食のレシピを聞かれたら渡せるようにしたり、子ども達の食育活動の様子や人気メニューを給食だよりに載せたりして、食を通した保護者支援に取り組んでいる。

### ○来年度へ向けて

- ・子ども達が苦手なものを少しでも食べられるよう、調理などで工夫していきたい。
- ・除去表の提出・チェックを早めに行えるよう取り組むことができた。来年度も続けられるように、献立作成等に早めに取り組みたい。
- ・アレルギー児一人ひとりの情報をしっかりと把握し、間違いがないように来年度も取り組んでいきたい。